

J A V Aによる有限要素法の基礎的研究

永 藤 壽 宮*

A Fundamental Study of Finite Element Methods In JAVA

NAGATO Toshimiya*

JAVA is now considered the most powerful and complete programming language, giving possibility to graphic interface, advanced calculations, etc. So I found that the use of such a tool should give big opportunities and possibilities to programming in the civil engineering field.

Program of finite element methods in JAVA is investigated for two purposes.

First purpose: To use JAVA programming for civil engineering problems.

Second purpose: To compare JAVA-runtime with Fortran-runtime.

キーワード: JAVA, Fortran, 有限要素法

1. はじめに

本研究の目的は、筆者がこれまでに開発した有限要素法プログラムを(2次元弾性問題から有限変位解析まで), JAVA を使って再プログラム化し, Fortran と JAVA について比較し, 建設の分野での有効性について考察することを目的とした。

JAVA は, Sun Microsystems 社が開発したプログラミング言語で, C言語に似た表記法を採用しているが, C言語など既存の言語の欠点を踏まえて一から設計された言語である。今までの言語にない完全なオブジェクト指向性を備えているとされている。

また, 強力なセキュリティ機構や豊富なネットワーク関連の機能が標準で搭載されており, ネットワーク環境で利用されることを強く意識した仕様になっている。

JAVA では約 80 パッケージを標準で含んでいる。

例えば, 以下のような

java.math: 意精度の整数演算, および任意精度の 10 進数演算を実行するためのクラスを提供する。

java.awt: ユーザインタフェースの作成およびグラフィックスとイメージのペイント用のすべてのクラスを含む。

java.io: データストリーム, 直列化, およびファイルシステムによるシステム入出力用に提供されている。

などがあげられる。そしてソフトから COMPILER まで全て Sun Microsystems の HP で提供されている。

2. 有限要素法の概要

解析しようとする構造物を, 有限個の簡単な形状をした要素の集合体として考える有限要素法の利用によって構造物全体の詳細な解析を可能とし, 構造物の断面力やたわみなどを計算できることは, 周知のことである。

まず 2 次元弾性問題のプログラムから始まり, 有限変位解析まで JAVA コードで書き換えた。その際, 最近開発された行列計算用パッケージ JAMA を利用し, マトリックスの足し算掛け算や逆マトリックスなどを一部利用した。

例として以下のように

```
public Matrix plus(Matrix B)
    Matrix C = Matrix A + B;
public Matrix inverse(Matrix B)
    Matrix A = B.inverse();
```

などを挙げておく。JAVA のクラスライブラリは, <http://math.nist.gov/javanumerics/>などを参照して加えていった。

浮動小数点の問題がどのように Fortran 演算時間に影響するかを考察する。

* 長野工業高等専門学校環境都市工学科助教授
原稿受付 2004 年 5 月 20 日

3. JAVA CODE プログラムの一部

下記に2次元弾性問題のプログラムの一部を掲載する.

```
/*
 * main_entry.java
 *
 * Created on November 1, 2003, 9:29 PM
 */
package DynamicInputData1;
import java.io.*;
import java.awt.*;
import java.awt.event.*;
import Jama.*;
import javax.swing.*;
import javax.swing.ImageIcon;
import javax.swing.JTabbedPane;
import javax.swing.text.*;
import javax.swing.event.*;
import javax.swing.table.*;
/**
 * @author nagato
 */
/** Initializes the Form */
public class main_entry extends
javax.swing.JFrame {

    public main_entry() {
        initComponents();
        pack();
    }
    // Variables declaration
    //
    public javax.swing.JFrame
jMainFrame;
    public javax.swing.JTabbedPane
tabbedPane;
    public javax.swing.JPanel MAINPanel;
    public javax.swing.JPanel jPanel1;
    public javax.swing.JPanel jPanel2;
    private javax.swing.ImageIcon icon;
    public javax.swing.JScrollPane
KAKOMscrollPane;
    public javax.swing.JTable jKAKOMTable;
    public
javax.swing.table.DefaultTableModel
DefaultKAKOMModel;
    public javax.swing.JScrollPane
```

```
POINTSscrollPane;
    public javax.swing.JTable jPOINTSTable;
    public
javax.swing.table.DefaultTableModel
DefaultPOINTSMModel;
    public javax.swing.JScrollPane
KOXscrollPane;
    public javax.swing.JTable jKOXTable;
    public
javax.swing.table.DefaultTableModel
DefaultKOXModel;
    public javax.swing.JScrollPane
KOYscrollPane;
    public javax.swing.JTable jKOYTable;
    public
javax.swing.table.DefaultTableModel
DefaultKOYModel;
    public javax.swing.JScrollPane
NFscrollPane;
    public javax.swing.JTable jNFTable;
    public
javax.swing.table.DefaultTableModel
DefaultNFModel;
    public int
NSTRES,NELT,NODT,NT,KOX,KOY,NF,i,j,k,l,
m,n,MM,N;
    public double E,PO,TH,W;
    public int
KAKOM[],NOKX[],NOKY[],NO[],INDEX[];
    public double EI[],T[], X[],Y[],F[],FX[],
FY[],B[],D[],STR[],SM[],TSM[],TSM1[],
TSM2[],DIS[],REAC[];

    private javax.swing.JLabel lblCOMPUTE;
    private javax.swing.JLabel lblFIRST;
    private javax.swing.JLabel lblFIRST2;
    private javax.swing.JLabel lblNSTRES;
    private javax.swing.JLabel lblNb1;
    private javax.swing.JLabel lblNb2;
    private javax.swing.JLabel lblE;
    private javax.swing.JLabel lblPO;
    private javax.swing.JLabel lblKOX;
    private javax.swing.JLabel lblKOY;
    private javax.swing.JLabel lblNF;
    private javax.swing.JLabel lblSum;
    private javax.swing.JTextField jtfNSTRES;
    private javax.swing.JTextField jtfNb1;
```

```

private javax.swing.JTextField jtfNb2; //Nb1 entry
private javax.swing.JTextField jtfE; jtfNb2 = new javax.swing.JTextField();
private javax.swing.JTextField jtfPO; //Nb2 entry
private javax.swing.JTextField jtfKOX; jtfE = new javax.swing.JTextField(); //E
private javax.swing.JTextField jtfKOY; entryjbtnOK = new javax.swing.JButton();
private javax.swing.JTextField jtfNF; //Compute button
private javax.swing.JButton jbtnOK; jtfPO = new javax.swing.JTextField();
private javax.swing.JCheckBox //PO entry
jCheckNSTRES; jtfKOX = new javax.swing.JTextField();
//Graphic initialization + event handling //KOX entry
private void initComponents() { jtfKOY = new javax.swing.JTextField();
// jMainFrame = new //KOY entry
javax.swing.JFrame(); // Global panel jtfNF = new javax.swing.JTextField();
tabbedPane = new JTabbedPane(); //NF entry
MAINPanel = new javax.swing.JPanel(); jbtnOK = new javax.swing.JButton();
// Global panel //Compute button
jPanel1 = new javax.swing.JPanel(); jCheckNSTRES = new
Global panel javax.swing.JCheckBox();
jPanel2 = new javax.swing.JPanel(); //Panel
Global panel jPanel1.setLayout(new
jlblCOMPUTE = new java.awt.GridLayout(10, 10));
javax.swing.JLabel(); // Label for FIRST jPanel2.setLayout(new
jlblFIRST = new javax.swing.JLabel(); java.awt.GridLayout(10, 10));
// Label for FIRST //
jlblFIRST2 = new javax.swing.JLabel(); jPanel1.setBackground(java.awt.Color.BLUE);
// Label for FIRST2 //FIRST label
jlblINSTRES = new javax.swing.JLabel();
javax.swing.JLabel(); // Label for NSTRES
jlblNb1 = new javax.swing.JLabel(); //
Label for Nb1 jlblFIRST.setVerticalAlignment(JLabel.CENTE
jlblNb2 = new javax.swing.JLabel(); // R);
Label for Nb2 jlblFIRST.setHorizontalAlignment(JLabel.RIGH
jlblE = new javax.swing.JLabel(); // T);
Label for E jlblFIRST.setSize(1,0);
jlblPO = new javax.swing.JLabel(); // jlblFIRST.setText("NSTRES =
Label for PO 0 ---> PLANE STRAIN ");
jlblKOX = new javax.swing.JLabel(); // //FIRST2 label
Label for KOX jlblFIRST2.setVerticalAlignment(JLabel.CENT
jlblKOY = new javax.swing.JLabel(); // ER);
Label for KOY jlblFIRST2.setHorizontalAlignment(JLabel.LEF
jlblNF = new javax.swing.JLabel(); // T);
Label for NF jlblFIRST2.setSize(1,0);
jlblSum = new javax.swing.JLabel(); jlblFIRST2.setText(" / else
//Sum ---> PLANE STRESS");
jtfNSTRES = new javax.swing.JTextField(); //NSTRES label
jtfNb1 = new javax.swing.JTextField(); jlblNSTRES.setVerticalAlignment(JLabel.CENT

```

4. JAVA によるプログラムの改良

Fortranは、Watcom Fortran Ver11.0 で行った。また JAVA は Java2 SDK, SE 1.4 と NetBeans3.6 を使った。

まず図-1のような簡単な2次元弾性問題の解析モデルで解説する。

図-2と図-3に示すように解析を簡単にするためや、他のソフトより高精度な結果を出せるためプレプロセッサを作って、プログラムが自動的に構造物を記入された有限個の要素に分解するようにした。

図-4のように COMPILER の WINDOW でこのように要素数や節点数が求まり、要素数が多くても困らないように図も出力可能とした。

図-5、図-6、図-7、図-8に示すように、記入された勾配によって一つずつの要素厚や節点座標などをパソコンが自動的に計算するようなプレプロセッサを開発した。

図-9や図-10に示すように、1要素の応力、主応力、1節点の変位、反力を SWING パッケージや GUI を利用して求めた結果はこのような表となった。また出力計算結果は以前の結果と同時に、かつ荷重や厚さなどの変化においても、比較することも可能とできるようにプログラムを組んだ。

また次に図-11、図-10、図-12に示すように、初期不整と残留応力度を有する I 形ばりの耐荷力を求める有限変位プログラムをやはり JAVA で作り直し、Fortranとの演算時間の比較を行った。

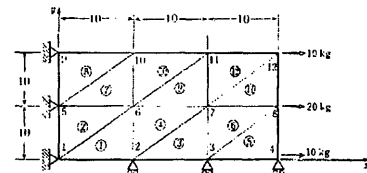


図-1 解析モデル

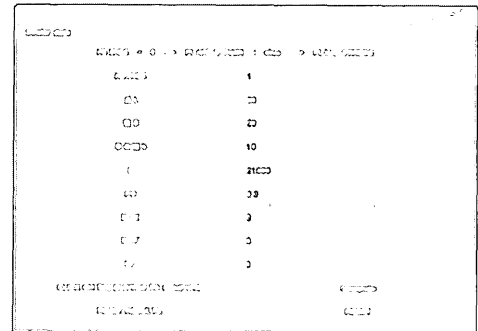


図-2 プレプロセッサ 1

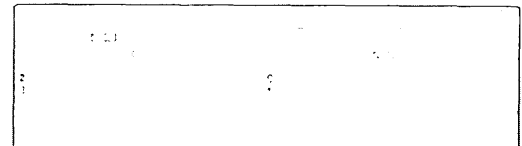


図-3 プリプロセッサ 2



図-4 図化プログラム

図-5 要素厚自動計算 1

図-6 要素厚自動計算 2

図-7 節点座標計算 1

図-8 節点座標計算 2

下記の図-13、図-14に示す部材データを使用し、図-15に示すフローチャートで、特に浮動小数点が効いてくる不釣り合い力など消去などで荷重増分の繰り返し計算を行い、FortranとJAVAの演算時間比較を行った。

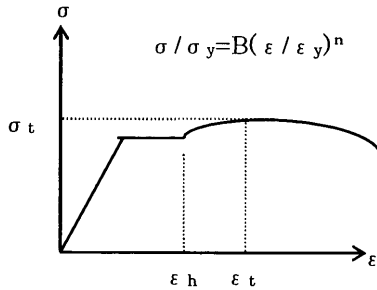


図-13 応力-ひずみ図

E	G	ν	σ_y	B
2.10E06	8.10E05	0.3	2.85E03	0.4876
n	ϵ_h	ϵ_t	k_f	k_w
0.268	0.0211	0.211	0.425	23.9

図-14 部材入力データ

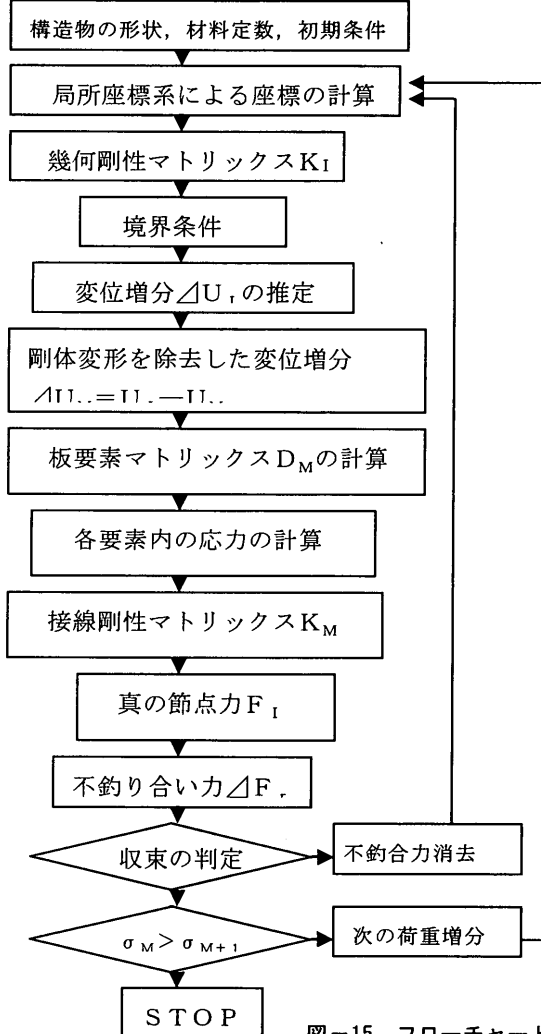


図-15 フローチャート

図-9 計算結果

図-10 計算結果比較

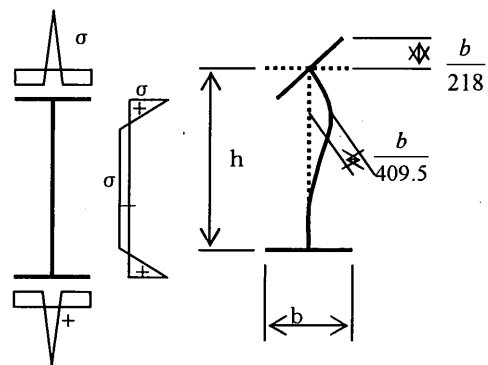


図-11 初期不整

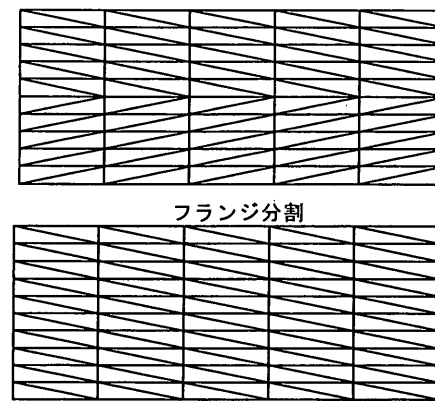


図-12 メッシュ分割

5. 結果と考察

これらの計算結果をまとめて表1に示す。表1に示すように強制変位によって有限変位の演算時間に差があるので、典型的な2つを選択して比較してみた。

ほぼ一致して、演算時間では、Fortran の方が有利であることが確認された。

しかしながら、これらの数値が、膨大なメッシュ割となるとどのような数値になるのかは、想像できないが、少なくとも実行速度のみで決定できないと思われる。

それは、これから Fortran 自身が free 化してきたとは言え、ライブラリ自体は高価であり、それに比して、JAVA は、オブジェクト指向言語であり、多くの標準クラスライブラリが、充実しており、何よりも様々なプラットフォームで(JAVA VM 仮想マシン上)作動するなど、数多くの長所を備えている。

また筆者も使用したが、NetBeans のようなコンポーネントプログラミング技術として有限要素法のライブラリを必要なものだけを組み合わせて作れるというのも長所であり、比較的楽にプログラム作成が出来た。

グラフィック関係では、JAVA に比較して Watcom Fortran や Visual Fortran などGUIがある程度、充実しているが、なかなか使用頻度が多くなく、ソフトウェアでの共通性がない。

しかしながら、グラフィックで結果をポストプロセッサの形で表現できなかったことを残念に考えている。

今回は、x86系のCPUで実施したが、AMDのCPUで実施したい。また浮動小数点に大きく影響を与える Structfp や widefp の効果も考えた比較計算も行っていきたい。

また Visual Basic や Visual C などの多くの開発環境でも実施し比較していきたいと考えている。教育的な観点からいくと、建設系の大学などでは、相変わらずプロ

グラム開発環境として Fortran が多く、C言語や Visual Basic などは、馴染みが薄く現状では一部の浸透でしかない現状である。

逆に考えれば、多くの建設系の Fortran の財産も現在、フリーウェア化した Fortran が出現してきて始めて学生が自宅で学習・研究できる可能性も少しずつ開かれてきたと考えられが数値計算ライブラリなどは依然として高価である。

しかし PC の機種や OS に作用されない JAVA は教育的観点からも、多くのライブラリも無償であり、都合のよい開発環境であると言える。

表-1 演算時間比較

解析	RUNTIME	
	Fortran	JAVA
有限変位解析 1	42 "	67 "
有限変位解析 2	54 "	82 "
Pentium4 2.0Ghz 512MB		

参考文献

- 1) 内山知実:Javaによる連続体力学の有限要素法 森北出版
- 2) 赤間世紀:Java2による数値計算 技報堂出版
- 3) 戸川隼人:有限要素法概論 培風館
- 4) 坂本衛:JavaBeans プログラミング入門—Begin the Bean—オーム社
- 5) Dan Brookshier :JavaBeans デベロッパーズ・リファレンス ソフトバンク社
- 6) 矢沢久雄:プログラマ養成入門講座 JAVA① 翔泳社
- 7) 磯山賢司:JAVAではじめるプログラミング入門 ナツメ社